

## 研修報告書 No.11

研修先： 土佐市民病院

2022年11月より1カ月間、高知県の土佐市民病院にて地域医療研修をさせていただきましたので、報告させていただきます。

土佐市は、人口2.7万人の都市で高知市の中心部から車で約30分の距離にあります。高齢化比率が37%と確実に高齢化が進んでいます。土佐市民病院へ外来で受診される患者さんも圧倒的に高齢の方が多く、入院される患者さんも70歳以上の方が1,300人以上と全体の78%を占めているのが現状です。高知県災害拠点病院として、また急性期病床96床、地域包括ケア病床54床を合わせた150床を有する仁淀川地域の中核病院として、市民の方々の健康を守る重要な役目を担っています。

1カ月の研修では、外来の初診を主に担当させていただきました。外来の見学は学生の時から幾度となくありましたが、自分が主体となり外来で患者さんのお話を聞き、診察をし、病名を決定し、必要ならば検査を考え、オーダーを出し、薬を処方するという一連の仕事を今まで経験したことがありませんでした。ですから最初の頃は、要領を得ず時間が掛り次の患者さんをお待たせしてしまい申し訳ない気持ちで一杯になったこともありました。短い時間の中でも患者さんに寄り添い、患者さんが望む医療を提供出来るように心がけました。何度か判断に迷うこともありましたが、その時は上級医の先生方に質問をし、アドバイスをいただき、すぐに疑問を解決することが出来、不安がなくなり大変有難かったです。病状から鑑別を挙げることの大切さを実感しました。

現在はコロナ第8波に突入し、全国各地に広がりを見せています。土佐市も例外ではなく患者さんが増えてきている昨今です。電話診療をさせていただきましたが、同じ病名でも熱と咳の方、熱と頭痛の方、熱と喉の痛みの方など患者さん一人ずつの症状が違います。症状に合う薬を処方することは、慣れるまでは大変なことでした。症状を事細かに懸命にお話される患者さんを診ていると、薬が効き早く症状が緩和されることを願うばかりでした。

入院されている患者さんの主治医も担当させていただきました。東京の病院では主に入院患者さんを担当しておりましたが、あくまでも上級医の先生が主治医であり、研修医はお手伝いをする形でした。それが上級医とともに主治医となり病気の説明、治療方針、退院とすべてのことを決めていくことは重圧でしたが、上級医の先生はいつも気にかけてくださり、手厚いサポートをして下さいました。そのおかげで何とか乗り切ることが出来ました。

外科医を志しているため、胆嚢摘出の手術と乳腺の手術に入らせていただきました。片方全摘手術はまだ立ち合ったことがなかったので、大変勉強になりました。卓越した技術に敬服致しました。閉創の際縫合させていただきましたが、最初は上手くいかず技術の未熟さを実感し、練習を重ねていくことの大切さを痛感しました。

地域医療は高齢化が進む日本において、とても重要なことです。地域に密着し、市民の方々の健康を地域全体でサポートをし、質の高いサービスを提供することであると思います。土佐市民病院の先生をはじめスタッフの方々は、患者さんに寄り添い心のこもった温かい対応をされています。これが地域医療の原点であると思いました。

1カ月という短い間でしたが、東京の病院では経験できない多くのことを学ぶことができました。この研修で考える力と自発的に行動する力がついたように思います。この経験を糧とし、一步一步歩みを止めることなく精進して参りたいと思います。

今回、地域医療研修を行うにあたり支えてくださった高知医療再生機構の皆さん、土佐市民病院の先生方、スタッフの皆さん、患者さん、市民の皆さんには感謝申し上げます。本当に有難うございました。お世話になりました。